

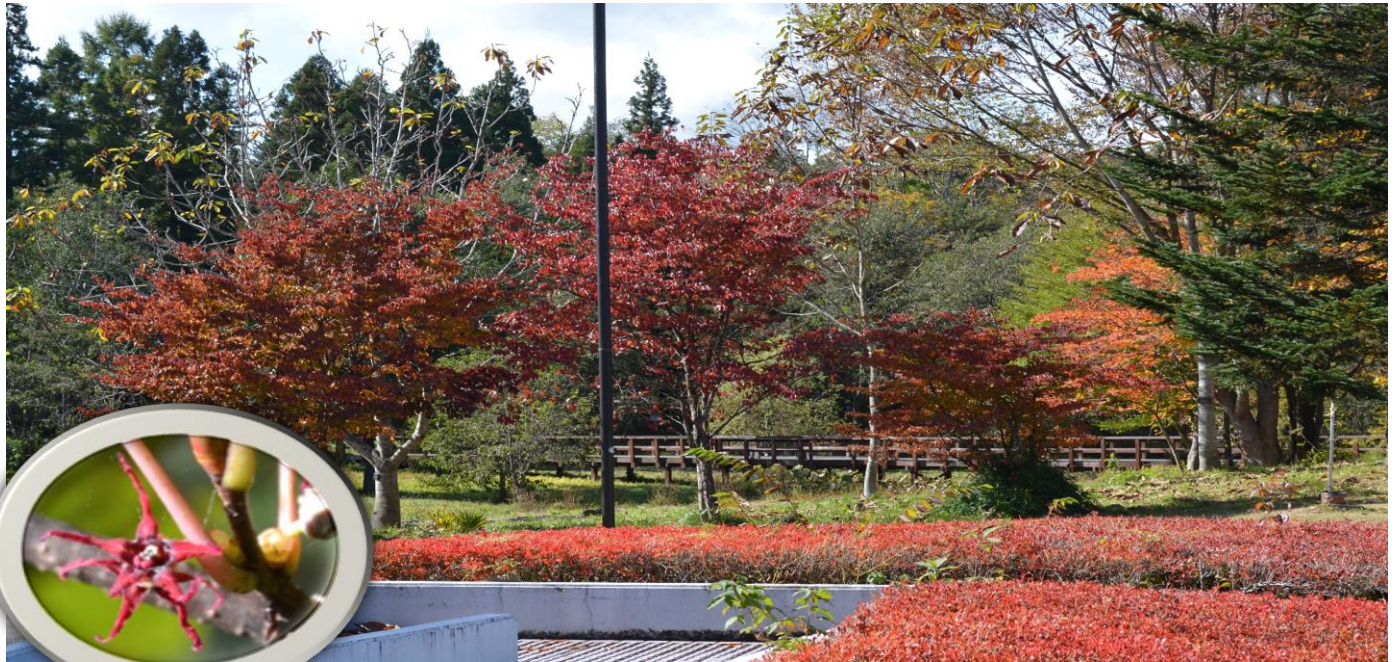
平成28年11月1日

各位

山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3

電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



「自然学習センター」から紅葉に染まる「クリンソウの谷」を望む

(○抜きは、本園で最後に咲く花「マルバノキ」)

野草園は紅葉が進み、明るい日差しに照らされると、それは見事に山肌を彩ります。「友好姉妹都市の庭」では、「コスモス」や「センニチコウ」などが咲きそろい、野草園で最後に開花すると言われている「マルバノキ」の花が咲き始めました。そして、目をこらせば、面白い形の冬芽や美しい実などを観察することができ、また花とは違った楽しみがあります。「学習センター」内ではペレットストーブで暖がとれますので、寒いと言って部屋に閉じこもらず、是非ご家族でお出かけ下さい。心も体も軽くなりますよ。お待ちしております。

11月の予定

~

冬季休園中の予定(12~3月)

◆「東北おし葉標本展」

- 日時 11/1(火)~11/13(日) 9:00~16:30 (ただし、13日は12:00まで)
- 内容 東北植物研究会の会員が保有する「おし葉標本」約60点の展示。 ○費用 無料(入園料別)

◆「早朝バードウォッチング」

講師:嵐田 稔氏

- 日時 11月5日(土) 午前6:00~8:00
- 内容 講師の案内で、双眼鏡などを使って野鳥を探します。早朝に、さえずりを聞かしてくれる可愛い小鳥たちを、何種類見つけられるでしょうか。 ○対象 事前申込み。先着20名。
- 申込み 電話で野草園(電話634-4120)まで。(費用:入園料のみ)
- 持ち物 防寒着、双眼鏡(野草園でも貸し出します)

◆「きのこ汁の振舞い」

- 日時 11/6(日) 13(日) 20(日) 27(日) 11:00~12:00
- 対象 各日、入園者先着30名。当日9:00から引換券配布。

◆「東北植物研究大会」

- 日時 11/12(土) 13:00~15:45 11/13(日) 10:45~16:00

- 内 容 標本展解説、研究発表(12日)。佐橋紀男先生による「ハナワラビ」の講演、ハナワラビとミヤマカスミザクラの野外観察(13日) ○費用 無料(入園料別)

◆『ガイドウォーキング』

- 日 時 11/3(木・祝) 6(日) 13(日) 20(日) 23(水・祝) 27(日)
1回目 10:00~11:00 2回目 11:00~12:00 3回目 13:00~14:00 4回目 14:00~15:00

- 内 容 野草園職員と一緒に野草園内を案内し、散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。今まで知らなかった花、不思議な種や花芽などを見つけてみませんか。

◆第23回野草園の魅力を探る『写真コンテスト』入賞作品展

- 日 時 開催中~11/23(水・祝) 9:00~16:30 ○場 所 自然学習センター内

- ◆【四季観察会 ④】平成29年2月16日(木)10:00~12:00 ~樹木と冬芽~ 講師：志鎌 節郎 氏
◆【四季観察会 ⑤】平成29年3月8日(水)10:00~12:00 ~早春の植物~ 講師：佐竹 恵一 氏

★★★ 今、見頃の花や果実、紅葉 ★★★

- ① マルバノキ ②タイワンホトトギス ③ゴールドンピラミッド ④ジュウガツザクラ
⑤コスモス ⑥クサギの果実 ⑦ムラサキシキブの果実 ⑧ツルウメモドキの果実
⑨イイギリの果実 ⑩ゲンノショウコの果実 ⑪サンシュユの果実 ⑫カエデ3種



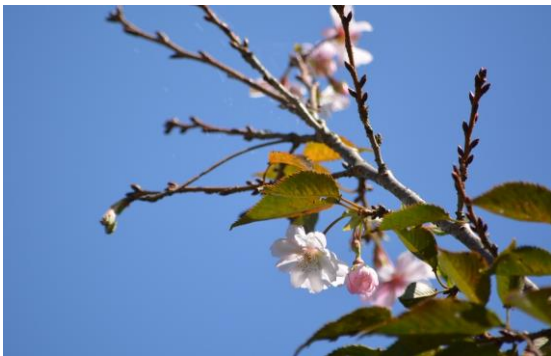
マルバノキ(マンサク科) 山地の谷間などに生える落葉低木です。葉は互生し、卵円形または円形で基部は心形です。秋には美しく紅葉します。葉のわきのごく短い柄の先に、**暗紅紫色の花を2個背中合わせに開きます。**花弁は5枚あり、星形に平開します。マルバノキはその葉が丸いことに基づき、別名ベニマンサクはその花が赤色であることに基づいた名前です。野草園では、シーズン最後に開花する花です。



タイワンホトトギス(ユリ科) 沖縄県などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さは30~50cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されていますが、本種はタイワンホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。



ゴールドンピラミッド(キク科) 和名は「ヤナギバヒマワリ」で、北アメリカのネブラスカからテキサス州にいたる地域に分布するそうです。茎が直立して無毛、頂部に多数の葉を互生します。花は、舌状花が多くてレモンイエロー、筒状花は褐色または紫色を帯びています。和名は、花がヒマワリに似て、葉が柳の葉のように見えるからです。



ジュウガツザクラ(バラ科)

コヒガンザクラの園芸品種で春と秋の2回花が咲きます。通常小木で、樹皮は暗灰褐色、若枝、成葉、葉柄などに毛があります。葉は互生し、倒披針形で質はやや厚いようです。花は淡紅白色で八重咲きです。名は十月桜で、秋から開花するからです。秋に咲く花は小形です。野草園では冬には休んで、また春に咲き始めます。



コスモス(キク科)

メキシコのもとの原産で、観賞用として花壇などに植えられる1年草です。茎はまばらで直立し、葉は対生し2回羽状に分裂します。茎の上部に白色、淡紅色、深紅色などの花を開きます。頭花は周辺に8枚の舌状花が並び、これが花色を表し結実せず、中心に黄色の管状花が多数集まり結実します。コスモスは学名の属名そのままです。



クサギ(シソ科)の果実

日当たりのよい山野の林縁や沿海地に生える落葉の小高木です。花は、芳香のある白花を多数つけます。花の後、萼はこのようにきれいな濃紅色になり、深裂して星状に開き、中央に藍色の果実をのせます。花も見ごたえがありますが、萼と果実のコントラストもきれいです。名は臭木で葉に臭気があることによります。



ムラサキシキブ(クマツツラ科)の果実

低い山地や野原に生える落葉の低木です。葉は対生し、楕円形で縁には鋸歯があります。葉の付け根から集散花序をだし、多数の淡紫色の小さな花をつけます。がくは短い鐘形で浅く5裂し、花冠は先が4裂します。今、球形で紫色に熟した果実を付けて、見る人の目を楽しませてくれます。コムラサキは花序が葉腋より少し上部につくことで区別できます。



ツルウメモドキ(ニシキギ科)の果実

日本を含め、東アジア一帯に自生する落葉つる性の木本。伸びた枝の先に、黄緑色の花を集めて付けていましたが、今は、淡黄色に熟した果実がはじけ、3つに裂開し、その中から赤い種子が見えています。その姿がきれいなので、生け花の材料によく使われます。



イイギリ(ヤナギ科)の果実 本州以南に分布する落葉高木。和名の由来は、昔、その大きな葉で飯を包んだため「飯桐」と言われるようです。ブドウの房のように垂れ下がった果実は、ナンテンに似ているので、「ナンテンギリ」とも言われます。おいしそうな実ですが、まずくて食べられないようです。

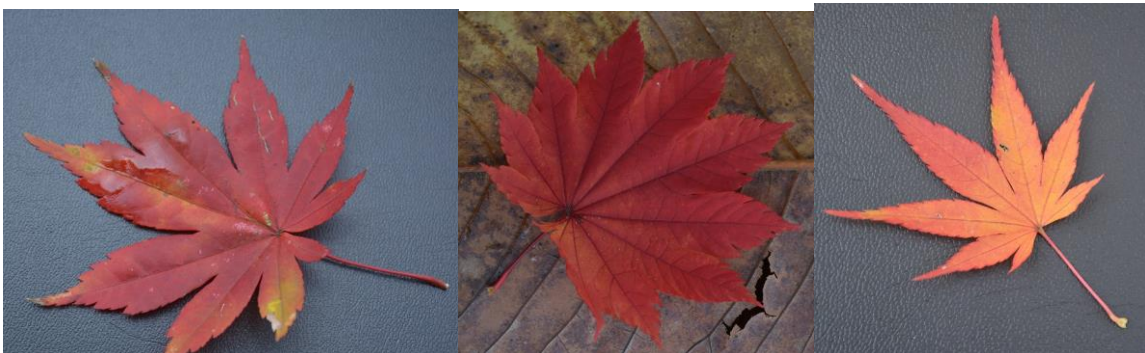


ゲンショウコ(フウロソウ科)の果実 昔から下痢止めの薬草として有名で、煎じて飲めばたちまち実感することから「現之証拠」と薬効の表現から名付けられたとされています。日本では北海道～九州の山野などに自生しています。茎は約30～40cmに伸び、葉はてのひら状に分かれます。花びらが5枚に分かれた紅紫色または白紫色の花が夏に咲きます。秋に種子を飛散させた後で果柄を立てた様子が、みこしのように見えることからミコシグサとも呼ばれます。



サンシュユ(ミズキ科)の果実 中国原産の落葉高木で、江戸時代に薬用植物として渡来しました。春、葉が開く前に淡黄色の小さな花をたくさんつけるので“春黄金花”と言われますが、秋は赤く熟す果実から“秋珊瑚”の別名があります。果肉を乾燥したものを強壮、強精などの薬用に、果実を果実酒にします。

※見事な紅葉のカエデの仲間。下記の視点で見分けられます。



左：ヤマモミジ…北海道から本州の日本海側に分布。イロハモミジの葉より大きく、7つか9つに裂け、鋸歯は粗くて大小二重になります。

中：ハウチワカエデ…九州～北海道などの寒い地方のブナ林に生育します。大きくて丸い葉は、“メイゲツカエデ”とも言われます。葉柄は短くて、毛が多いのが特徴です。

右：イロハモミジ…本州の太平洋側～九州に分布。葉はムクロジ科では最小、切れ込みは深く、裂片は細いのが特徴です。翼果が葉よりも上部にできるようです。

※ 切れ込みの深さ、葉身と葉柄の比率、鋸歯の様子 などでおおよそ判別できます。